

ANNUAL REPORT



一般財団法人
ちくご川コミュニティ財団

2022.08-2024.03





代表理事／理事長
宮原 信孝

ちくご川コミュニティ財団（CCF）への常日頃からのご支援に心から感謝申し上げます。皆様のお力添えでCCFは飛躍的に活動の幅と深さを増しました。

第3回子ども若者応援助成は、助成資金200万円をクラウドファンディング（CF）により賜り、6団体に助成を行いました。昨年7月の筑後地域豪雨災害では、素早く災害基金への寄付募集を開始し、140万円以上のご寄付を賜り、7災害支援団体に助成できました。休眠預金等活用事業23年度通常枠及び緊急枠の資金分配団体に採択され、助成規模と実行団体（助成団体）の数が3倍に増大しました。

私たちの活動は行政にも響くようになりました。西日本新聞社との協働でCFキャンペーンを行い、学校以外の場で学ぶ子どもたちの為の奨学金制度「たまきちゃん」を創設しましたが、これを知った福岡県大野城市が同目的の助成を決定しました。また、同県久留米市は、ふるさと納税を活用した民間公益団体のガバメントCF（GCF）の開始にあたり、CCFに事業伴走の委託を行ってくれました。

このCCFの発展の基には、関係者や行政からの信頼の高まりがあると考えます。CCFはNPOの信頼の証「グッドガバナンス認証」を福岡県で初めて取得しました。CCFのプログラムオフィサーは助成団体に対しきめ細かな伴走支援を行っています。今後とも、しっかりとした伴走支援に努めるとともに、公益法人化を進め、更なる信頼の獲得に務めて参ります。

引き続きご支援の程、どうかよろしく願いいたします。

筑後川関係地域の 「人の役に立ちたい」という 想いと活動をつなぐプラットフォーム

地域でどんなお困りごとがあるのか
それは誰か1人ではなく 地域全体の課題ではないのか
私たちの日常に埋もれがちな社会課題を洗い出し
論理的な道筋を立て 解決に向けた事業を实践する
市民主体で 持続可能な地域を目指すために



私たちの活動

2019年8月1日。市民ら発起人220人が集まり、福岡県初のコミュニティ財団として「一般財団法人ちくご川コミュニティ財団」が設立されました。九州最大の河川「筑後川」が流れる、福岡県全域と佐賀県東部、熊本県荒尾市・小国町・南小国町、大分県日田市を「筑後川関係地域」と呼び、事業対象としています。地域には数多くの課題がありますが、現在、私たちが焦点を当てて取り組むのが、子ども若者支援と災害支援です。

個人や企業の方々からいただいた寄付やスキルなどの資源を、筑後川関係地域で活動するNPOやボランティアなどの市民社会組織（CSO）へ助成します。広報や資金調達など団体の組織基盤強化を支援するほか、CSOが地域で活動しやすくするための環境整備を行います。

こうした伴走支援を行うことから、私たちはCSOの「中間支援組織」として機能しています。これまでの支援団体数は延べ210件、助成総額は2億5千万円にのぼります。



スタッフ紹介

【理事／スタッフ】

代表理事／理事長 宮原 信孝
副理事 坂井 尚史
理事／事務局長 赤司 喜一郎
理事／事業部長／プログラムオフィサー 庄田 清人
理事／企画広報部長／プログラムオフィサー 柳田 あかね

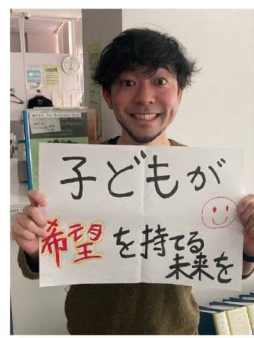
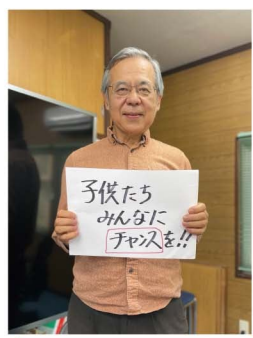
スタッフ／プログラムオフィサー 鬼丸 武士
スタッフ 牟田 眞奈美
スタッフ 石川 洸



【評議員／監事】

評議員 大内田 治男 認定 NPO 法人ワンストップリーガルネット
評議員 久原 正治 久留米大学 常務理事
評議員 伊佐 淳 久留米大学経済学部 教授
評議員 黒川 幸治 株式会社三和 代表取締役
評議員 江上 武幸 弁護士 江上武幸法律事務所
評議員 森 雅徳 九州メディカルサービス株式会社 代表取締役
評議員 渡邊 一生 株式会社九州都市システム 代表取締役
評議員 根木 佳織 公益社団法人 Civic Force 代表理事
評議員 才田 亜希子 株式会社ベルディオ・ファクトリー代表取締役社長

監事 田中 健太郎 弁護士
監事 川野 武志 公認会計士





トピックス

福岡県初「グッドガバナンス認証」を取得

ちくご川コミュニティ財団は2022年11月、公益財団法人日本非営利組織評価センター(東京都)による「グッドガバナンス認証」を、福岡県で初め取得しました。NPOの信頼性を示すこの証は、弊財団を活用したい人、支援したい人すべての方々に安心していただくためのものです。認証団体は、外からは見えにくい組織内部の状況を第三者機関に開示して、信頼性・透明性の向上に努めている団体とされています。私たちは組織運営やガバナンスについての評価基準27項目を全て満たすために、体制整備に取り組み、約1年半かけて認証を取得することができました。



寄付月間「アンバサダー賞」受賞

寄付月間2022で団体アンバサダーを務めていたちくご川コミュニティ財団は、寄付月間大賞の「アンバサダー賞」を受賞しました。寄付月間について団体内や地域のNPOへの普及、SNSでの積極的な発信や賛同企画の実施などが高く評価されました。

寄付月間とは、NPOや企業、教育機関、自治体などが協働で行う、全国的な寄付啓発キャンペーンです。2015年から始まり、全国各地で寄付に関する取り組みや情報発信が行われています。



ウェブサイトをリニューアル

2023年3月、ちくご川コミュニティ財団の新しいウェブサイトを公開しました。私たちのイメージカラーであるグリーンを基調に、分かりやすいサイトに仕上がりました。事業進捗や寄付のお申し込み、助成事業の公募案内、イベントのお知らせなど最新情報を随時更新しています。

寄付募集 オンライン完全対応

私たちの活動を支え、地域の課題解決を後押しする寄付。2023年度より寄付決済システム「コングラント」を導入し、パソコンやスマホからお好きなタイミングで寄付申し込みができるようになりました。決済方法もクレジットカード、Apple Pay、Google Pay、銀行振込、ゆうちょ銀行払込取扱票と幅広くご用意しました。

報道実績

2023年

- 1月14日 西日本新聞福岡県版 県内初認証「グッドガバナンス」信頼性の指標
- 1月18日 コミュニティラジオ天神 トリプルウィン
- 3月22日 西日本新聞筑後版 無性学習塾や若者の居場所づくり 孤立解消へ成果と課題 久留米市のNPO など事業報告会
- 7月26日 西日本新聞筑後版 長期的な災害復興支援へ基金を募集 市民団体に資金助成



8月3日

- KBC ウクライナ避難家族が大雨被災地で”炊き出し”
- FBS 日本に恩返しを ウクライナ人女性が大雨被災地で自慢の炊き出し
- NHK ウクライナ人女性が大雨被害の久留米市で母国の料理ふるまう
- TNC 「日本に恩返ししたい」避難のウクライナ人家族豪雨被災地で”故郷の味”を炊き出し



- 西日本新聞 戦禍の祖国と大雨被災地重ね…ウクライナ避難家族「恩返しを」福岡・久留米の子に料理振る舞う
- 毎日新聞 ウクライナ避難家族 大雨被災地で料理支援 福岡・久留米で
- 読売新聞 被災者支援恩返しの料理 九州大雨 田主丸でウクライナ女性

- 9月28日 オルタナ(雑誌)74号 ヒト・カネ・情報を支援し市民活動を持続可能に
- 12月1日 西日本新聞社会面 不登校の子支援へ基金創設 福岡・久留米の財団がクラウドファンディング
- 12月3日 西日本新聞暮らし面 次代の担い手育成に向け 久留米市の財団が基金創設「多様な学び 社会が保障」 【シリーズ不登校その先①】
- 12月16日 西日本新聞福岡県版 不登校の子を支援 基金の愛称募集
- 12月17日 西日本新聞暮らし面 民間フリースクール利用わずか4%…学費払えない家庭の受け入れに苦悩 【シリーズ不登校その先②】
- 12月20日 社説・コラム 風向計「普通」に苦しむ子
- 12月24日 西日本新聞暮らし面 足りない情報自分たちで「学校を休んでも大丈夫」 「大人に向けたたくさんの道」 【シリーズ不登校その先③】



2024年

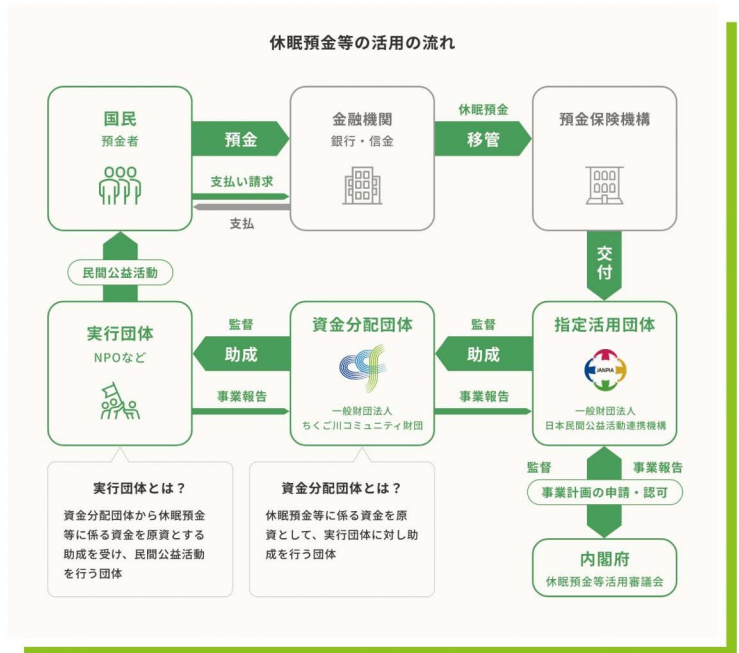
- 1月14日 西日本新聞暮らし面 不登校を経験した高3と母トークショーで語る 学校から遠ざかったきっかけと今そしてこれから 【シリーズ不登校その先④】
- 1月21日 西日本新聞暮らし面 フリースクールで得た転機 家族崩壊を「救ってくれた」素の自分に「自信を持てた」 【シリーズ不登校その先⑤】
- 1月23日 西日本新聞福岡県版 不登校の子ども支援基金 愛称は「たまきちゃん」名付けた福岡・久留米の中学3年生が込めた願い
- 1月24日 社説・コラム 風向計わが子を自宅に1人
- 1月28日 西日本新聞暮らし面 校内と地元を選べる登校先フリースクールと連携して 毎日を楽しむ大人の姿示す 【シリーズ不登校その先⑥】
- 1月29日 西日本新聞福岡県版 不登校の子の支援基金 キックオフイベント 久留米大で40人参加／不登校テーマの人形劇 久留米市のNPOリスタート表現





休眠預金等活用事業

休眠預金等活用事業とは、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」（休眠預金等活用法）に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度です。ちくご川コミュニティ財団は休眠預金等活用事業における資金分配団体として、社会課題解決のための事業立案、一緒に事業運営する実行団体の公募や助成、実行団体への組織基盤強化と環境整備の伴走支援を行います。また、事業の成果や波及効果を可視化するための社会的インパクト評価にも取り組みます。



2020年より弊財団は3カ年の「通常枠事業」を3つ運営しています。2024年7月からは単年の「緊急枠事業」を開始予定です。

ちくご川コミュニティ財団ウェブサイトの休眠預金等活用事業ページからも詳しい情報をご覧ください。





2020年度通常杵事業

困難を抱える子ども若者の孤立解消と育成

子どもの貧困や若者の社会的孤立などの課題解決を目指す2つの実行団体に、3年間で総額約3,626万円の助成と伴走支援を実施します。貧困や社会的孤立により困難を抱える子ども若者が居場所や相談場所を持ち、地域で学び、働きながら成長し持続可能な社会の担い手となるモデルづくりを目指します。

実行団体【所在地】

認定NPO法人わたしと僕の夢
【福岡県久留米市】



一般社団法人みんなの家みんか
【福岡県朝倉市】



3年間の事業終了 報告会を開催

2024年3月20日、久留米大学御井キャンパスで「次世代を守り持続可能な地域を創るカギ」をテーマに、事業完了報告会を開催しました。2実行団体と一緒に、3年間の事業成果や今後の取り組みについて発表しました。会場、オンラインから約60名にご参加いただきました。

わたしと僕の夢は、認定NPO法人格の取得や企業3社によるプロボノ支援、3年連続で実施したクラウドファンディングなどで事業・組織・財務をしっかりと成長させ、佐賀県みやき町や熊本県小国町へも教室を拡充しました。無料塾を利用する子どもたちの学習はもちろん、塾内外での社会体験活動にも力を入れ、塾内キッチンで調理したあたたかい食事をみんなで食べるなどして、子どもたちの学力、非認知能力や学力が上がり、卒業生も安心して利用できる居場所づくりができました。みんなの家みんかは、休眠預金活用制度で事業をスタートアップし、事業期間中に任意団体から一般社団法人化しました。関東や九州から対象者（若者）の滞在受け入れ、SNS相談窓口などで実績を重ね、全国の児童福祉施設等との連携も構築しました。過疎化が進む中山間地域に多彩なステークホルダーが訪れる居場所となり、3年間の交流人口は延べ8,974人に達しました。指定活用団体のJANPIAも登壇いただき、ちくご川コミュニティ財団について「実行団体のニーズに沿った丁寧な伴走支援」「財団のプログラムオフィサーを中心とする連携体制から生まれる機動力があった」と資金分配団体としての特徴や実績を述べられました。





2021年度通常枠事業

誰ひとり取り残さない居場所づくり ～学びの場における子ども若者の孤立解消と育成～

学校に行けない・行かない子ども（不登校の子ども）をサポートする3つの実行団体に3年間で総額4,392万円の助成と伴走支援を実施します。不登校児童の数は増加傾向で全国に30万人いるとされる中、地域の持続可能性の観点から重要かつ緊急性が高い社会課題と言えます。本事業で、子どもが地域で多様な学びの場を選択できる仕組みづくりを目指します。

実行団体【所在地】

認定 NPO 法人
箱崎自由学舎 ESPERANZA
【福岡県福岡市】



一般社団法人
家庭教育研究機構
【福岡県飯塚市】



特定非営利活動法人
未来学舎
【福岡県久留米市】



事業開始から1年半 中間評価ワークショップ

2023年10月14日、福岡市内で中間評価ワークショップを開催しました。福岡県内でフリースクールを運営する3つの実行団体とともに本事業を開始し1年半となったことから、これまでの成果や課題について共有しました。

本事業の実施により、校内フリースクールの展開、関係者の事業理解の深化、地域とのつながりの強化、家計支援制度導入に向けた部会の進展など着実な成果が出ていることを確認できました。一方、団体の人材確保や財源の成長の難しさなど、組織基盤強化に関する課題も明らかとなりました。

どの地域の子どもも、安心して自分らしく学べる社会の実現に向けて、実行団体の皆さんと本事業を進めて参ります。





2023年度通常杵事業

困難を抱える家庭を取り残さない仕組みづくり ～子ども若者とその家族のためのコレクティブインパクト～

2024年3月から開始した新規事業です。福岡県久留米市、佐賀県鳥栖市など久留米市周辺地域で活動する6つの実行団体に、3年間で総額1億480万円の助成と伴走支援を実施します。子どもや若者自身だけではなく「家庭」そのものへ焦点を当てた包括的な支援事業です。

困難を抱えた家庭への訪問支援やイベントなどのアクセス活動、支援を必要とする家庭の状況を把握するために行うアセスメント活動、家庭に必要な支援を届けて子ども若者とその家族の生活の質の向上を目指すアプローチ活動を行います。

これらの活動を通して、コレクティブインパクトチームの立ち上げを行い、困難を抱えた家庭を取り残さない仕組みづくりを目指します。

※コレクティブインパクト=企業・行政、CSOなどセクターを超えて知識や技術を持ち寄って協力し、社会的なインパクト(影響)を出すこと。

実行団体【所在地】

一般社団法人 産前産後サポーター協会

【福岡県小郡市】
地域の力で産後ケアをうける事が
あたり前の社会をつくろう



特定非営利活動法人 久留米市手をつなぐ育成会

【福岡県久留米市】
障害や病気をもち困難を抱える
家族を地域で支えるしくみづくり



お母さん大学福岡 (ちっこ) 支局

【福岡県久留米市】
孤育てをなくしお母さんを笑顔にする
エンパワメント事業



いろり

【佐賀県鳥栖市】
互いに手を取り合い生きやすい地域をつ
くするための事業～心もお腹も満たされる
いろり端の様なあたたかい居場所づくり～



一般社団法人 umau.

【福岡県久留米市】
困難を抱える家庭の支え合う暮らし
「3分の1生活」プロジェクト



特定非営利活動法人 にじいろCAP

【福岡県三潴郡】
学校アドボカシー事業～こどもが自分の環境
の困難さを認知・表現できる地域づくり事業～





子ども若者基金

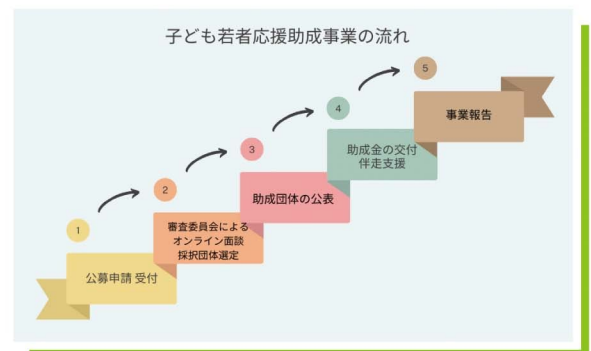
子ども若者基金とは

子ども若者基金は、ちくご川コミュニティ財団に初めて寄せられた遺贈寄付をもとに2020年に創設されました。「社会の子育てをしたい」という故F・S様の方の想いが込められています。この基金で、困難を抱える子ども若者とその家族の支援活動に取り組む団体を後押しする「子ども若者応援助成事業」を運営しています。これまで3回の助成事業を実施、26事業（団体）に総額約876万円を助成しました。

子ども若者応援助成事業

子どもや若者を取り巻く「困難」のかたちはさまざまです。経済的に苦しい、子育てのサポートがない、学校にも家庭にも居場所がない、外国にルーツを持つ、病気や障がいがあるなどさまざまな背景から「困難」という壁が生じます。この困難が、社会的孤立を引き起こすと言えます。

筑後川関係地域には、困難を抱える子ども若者をサポートする団体が数多くあります。しかし、「資金調達が難しい」「自分たちの活動を知ってほしいが方法が分からない」といった悩みを抱える団体も少なくありません。そこで活用されているのが、地域密着型の助成事業である子ども若者応援助成事業です。1年間の助成期間で、資金提供だけでなく広報や人材育成といった組織基盤強化を目指す伴走支援も実施します。



はじめてのクラウドファンディング

ちくご川コミュニティ財団は2022年12月から60日間、初めてのクラウドファンディングを実施しました。遺贈者様の想いで設立した本基金を存続させ、一つでも多くの団体を後押しして、1人でも多くの方へ支援を届けるためです。クラウドファンディングの寄付募集は目標金額200万円を達成、159名様から総額2,178,000円が寄せられました。あたたかいご支援に厚く御礼申し上げます。



第3回助成団体（2023年度実施）

クラウドファンディングのご支援を活用して3度目の助成事業を運営しました。

14団体の公募申請をいただき、外部の有識者等で構成する審査委員会の選考を経て、6団体を助成しました。団体名と事業名は次の通りです（カッコは所在地）。

一般社団法人 ぷらっとどっと
【福岡県久留米市】



長期休暇期間の子どもと若者のためのインクルーシブな居場所づくり事業

コップルーム
【福岡県久留米市】



困難を抱える子どもがいる家庭の不安や悩みに寄り添う安心安全な居場所づくり

特定非営利活動法人 未来学舎
【福岡県久留米市】



子どもを地域社会とお祭りで繋げよう事業

みなと子どもの広場

【福岡県大牟田市】



宿題会と長期休みのイベント

Nっ子ネットワーク 佐賀PianPiano

【佐賀県佐賀市】



N I C Uを卒業したご家族が
つながりあう居場所づくり事業

おもやい広場くまさん文庫

【福岡県小郡市】



読書を通じて子どもたちに本の
楽しさを教え、居場所と育児支援

遺贈寄付シンポジウム

2023年9月9日、久留米大学御井キャンパスで「遺贈寄付シンポジウム～ありがとう子ども若者基金～」(主催：ちくご川コミュニティ財団、後援：全国レガシーギフト協会)を開催しました。子ども若者応援助成事業の助成団体や昨年実施したクラウドファンディング支援者の方々など、会場とオンラインで計40名様にご参加いただきました。

本シンポジウムは、筑後川関係地域の未来へ想いを託して下さった遺贈者の方へ感謝の気持ちを込めて、地域で遺贈寄付がどのように活用されているかを学ぶ1日です。9月13日の「国際遺贈寄付の日」、この日を含む9月11日～17日の「遺贈寄付ウィーク」に関連して企画しました。

はじめに、弊財団へ遺贈寄付をいただいた故F・S様への黙祷をしました。続いて久留米大学基盤教育研究センター中村寛樹教授のご挨拶やご来賓の祝電披露をさせていただきました。

全国レガシーギフト協会代表理事の山北洋二さんによるセミナーでは、「地域を支える遺贈寄付のはなし」と題して、遺贈寄付の基礎知識や福岡県内の事例などについてお話しいただきました。

子ども若者応援助成事業の助成団体による事業発表があり、会場からの質疑応答や意見交換で盛り上がりました。



子ども若者基金 応援お願いします

子ども若者基金へいただいたご寄付は「子ども若者応援助成事業」の助成金として活用され、筑後川関係地域で活動する団体とその受益者に支援が届きます。助成団体における助成金の使途は、スタッフ人件費や子どもたちの遊び道具などの物品購入費、食支援のための食品購入費等があります。なお、基金運営のために寄付金総額の上限20%を弊財団の管理費に充当させていただきます。

ご寄付はQRコード、または下記のリンクからお申し込みいただけます

<https://congrant.com/project/chikugogawa/6226>





災害支援活動事業

九州最大の河川「筑後川」が流れる筑後川関係地域では、2017年の「九州北部豪雨」から4年連続で自然災害に見舞われています。これらの災害は甚大な被害をもたらし、今も復興に向けた支援を必要とする地域が少なくありません。

災害の多発化や激甚化が目立つ近年。筑後川関係地域で災害が起きたとき、その後の復旧や復興のために、迅速かつ的確な支援が行き渡る仕組みづくりが必要です。ちくご川コミュニティ財団は、平時からの備えやネットワークの構築に取り組んでいます。

2023年7月10日 記録的大雨による発災

7月10日朝から福岡、佐賀、大分各県で線状降水帯が発生し記録的な大雨となりました。気象庁は大雨特別警報を発表。筑後川の支流などの氾濫、土砂災害が相次ぎました。

報道によると、筑後川流域の浸水面積は福岡、佐賀両県で約4,700ヘクタールに上ったことが国土交通省九州地方整備局の調査で分かっています。福岡市のペイペイドーム約590個の広さにあたります。その後、久留米市は浸水や土砂災害を受けた住宅の被害件数（推計値）は3700棟と発表。2018年以降、久留米市で相次ぐ水害被害では最大規模になりました。発災から一夜明け、私たちは安全を確認して久留米市梅満町の財団事務所を開館。地域や連携団体から被災状況を情報収集し、財団ウェブサイトやSNSで支援情報の発信や「災害支援基金」への寄付募集を開始しました。今回の災害を受けて、久留米市における災害対応について話し合う「久留米連携会議」が発足、弊財団も事務局を担当しました。被災者支援活動等を行う約20団体が参加しました。



YNFとの連携

ちくご川コミュニティ財団は、2017年の九州北部豪雨をきっかけに設立された被災者支援団体の特定非営利活動法人YNF（福岡市）と連携しています。YNFは「災害ケースマネジメント」を用いて、被災者の方々へ丁寧な個別訪問を実施します。弊財団事務所敷地内には、災害時に必要な工具類や支援物資を備蓄するための倉庫があり、YNFに活用いただいています。

発災2日目、YNFと被災状況についての情報共有や支援活動についての対面協議を実施。社会福祉協議会への訪問、倉庫への支援物資の受け入れと被災地への輸送が始まりました。



市民と協働 広がる支援の輪

自治体で災害ボランティアセンターが開設される中、ちくご川コミュニティ財団は久留米市内を中心に被災地のニーズ調査を実施し、ボランティアなどの人的支援や必要な物資の普及を目指しました。

発災5日目で公的支援が届いていない空白地があったことから、大橋校区コミュニティセンターと連携して支援を届ける体制を構築。久留米大学在学学生や卒業生でつくる市民団体パルクィズくるめ（久留米市）と協働で、久留米市大橋町での重点的な支援活動を展開しました。

発災から2週間。自宅のみならず、保育園や学校、公園といった居場所を失った被災地の子どもたちも夏休みに入りました。甚大な被害を受けた久



留米市田主丸町では、災害時の子どもの居場所「この指とまれ」を地域住民が立ち上げ、弊財団も居場所運営をバックアップしました。ウクライナ侵攻により佐賀市へ避難しているウクライナ人家族とおつなぎし、水分校区コミュニティセンターでウクライナ料理会を開催。このゆびとまれを利用する子どもたちと、ウクライナ人家族の架け橋となり、夏休みのひとときを楽しんでもらいました。



私たちは「Amazon みんなで応援プログラム」で、クーラーボックスや麦茶、子どもの遊び道具などの支援物資のご協力を呼びかけ、全国から1,000点以上の物資をお寄せいただきました。また、福岡県済生会大牟田病院様、福岡県済生会二日市病院様、大分県済生会日田病院様より、子どもの学用品などをご寄付いただきました。病院職員の皆様や患者様よりご寄贈いただいたものです。



これらの支援物資を、久留米市大橋町や田主丸町の被災された方々へお届けしました。物品寄贈をいただいた皆様に、心より御礼申し上げます。



災害支援基金とは

筑後川関係地域で災害支援活動に取り組む市民団体を後押しするために設立しました。発災時は迅速な支援活動に必要な資金や人材を確保するため、平時は地域の防災・減災力を高める取り組みを拡充するために、この基金が活用されます。

2023年7月の大雨災害を受けて2回の助成プログラムを実施。7団体に総額約630,000円を助成しました。団体名と事業内容は次の通りです。

■ 特定非営利活動法人YNF

被災者応援イベント
「つながる広場 in 田主丸」を開催

■ 雲の子文庫

災害時の子どもの居場所
「この指とまれ」の立ち上げと運営

■ 福岡県行政書士会くるめ支部

被災者の「り災証明書」等
交付申請代行支援事業の周知

■ 楽しみん祭(しゃい)！笑いん祭(しゃい)！実行委員会

被災した子どもたち向けの夏祭り

■ パルキッズくるめ

被災地域の小学生の
学習、遊び、居場所支援

■ ボランティアDIWA

支援物資の戸別配布

■ 特定非営利活動法人日本レスキュー協会

被災したペット飼養世帯への物資支援と相談対応

災害支援基金 応援お願いします

災害支援基金へいただいたご寄付は、災害時の支援活動や復旧・復興支援活動、減災や防災支援活動を行う市民団体へ助成いたします。助成団体における助成金の用途は、被災地への交通費やスタッフ人件費、物品購入費などがあります。その他、災害時支援を考える地域円卓会議の企画運営費や災害時拠点となる倉庫・事務所の整備費として活用いたします。

なお、基金運営のために寄付金総額の上限20%を弊財団の管理費に充当させていただきます。

ご寄付はQRコードまたは下記のリンクからお申し込みいただけます

<https://congrant.com/project/chikugogawa/6227>



募金箱設置へのご協力
ありがとうございます。
設置場所を募集中です。





子どもの多様な学びの場を保障する基金（たまきちゃん）

学校に行けない・行かない子ども（不登校の子ども）は全国に過去最多の約30万人。「学校以外の場所や方法で安心して学びたい」と願う子どもたちが、筑後川関係地域にもたくさんいます。そんな子どもたちの学びの選択肢に、民間運営のフリースクールやオルタナティブスクールなどがあります。

しかし、家庭への経済的負担が課題となっています。フリースクールの月謝平均は約3万3千円、入会金の平均は約5万3千円（2015年文科省調査）。フリースクール等がない地域も多く、遠方に通うための交通費負担も大きい家庭も少なくありません。公的な補助制度が居住地域にないことも、家庭負担の要因の一つと言えます。弊財団の調査では、行政による個人へのフリースクール等利用費補助制度があるのは九州の自治体で1つだけです（2024年3月現在）。ちくご川コミュニティ財団は、不登校の子どもをサポートする事業（休眠預金等活用事業2021年度通常枠事業）に取り組む中で、不登校の子どもたちが経済的な理由から学びを断念し、社会で居場所を失い孤立することを防ぎたい、という思いが膨らみました。そこで、フリースクール等の利用料を補助する奨学金事業を運営する「子どもの多様な学びの場を保障する基金」を2024年2月1日に立ち上げました。民間財団がフリースクール等利用者を後押しするための奨学金事業を運営する基金を立ち上げるのは九州初です。本基金は弊財団が運営し、西日本新聞社（福岡市）と協働しています。



基金は次の目的のために設立しました

- ① 基金で奨学金事業を実施することで、経済的負担を軽減し子どもが多様な学びの場（フリースクール等）を選択しやすくする
- ② 市民や企業等からの寄付を原資に基金を設立することで、子どもとその家族に対して、社会が多様な学びの場を保障しようとしているメッセージを届ける
- ③ 地域や市民に支えられる基金にすることで、奨学金事業を持続可能な取り組みとする
- ④ 基金を適切に運用することで、寄付者・支援者への説明責任を果たす



たくさんの想いで基金設立

2023年12月1日から2024年1月31日まで、基金立ち上げのためのクラウドファンディングを実施、300万円を目標に寄付募集しました。ネクストゴールも達成し、200名様から330万円が寄せられ、基金を設立することができました。ご賛同をいただき誠にありがとうございました。



基金設立に向けて、たくさんの方の関心をお寄せいただけるよう、様々な取り組みを実施しました。多様な学び基金プロジェクトを立ち上げた弊財団の庄田清人(理事・事業部長)と、教育分野担当で不登校について取材や記事執筆を続ける、西日本新聞社の四宮淳平さん(現・報道センター編集委員)による、オンライントークイベントを2回実施しました。



2024年1月28日に開催した「基金設立キックオフイベント」では、不登校を経験した中村鷹之輔さん(通信高校3年生)と母親の富美夏さん親子によるトークセッションを企画。西日本新聞で連載の漫画「不登校子のこころ親知らず」の特別展示会もしました。同作品の原作者あおいさんと漫画家のおがたちえさんからも応援をいただきました。おがたちえさんには、中村さん親子の歩みを題材にした漫画を特別に描いていただきました。



基金の愛称公募では久留米市在住の中学3年生が考案した「たまきちゃん」が採択されました。家族が不登校だった時、人とのつながりで救われた経験も踏まえて「全ての子どもに学ぶ環境が整えられるように」という願いを込めて名付けてくださいました。

ロゴマーク公募には、東京都在住の高校2年生の作品が採択されました。「たまきちゃん」をキャラクター化したデザインで、奨学生になる子どもたちも好きになってくれるような可愛いロゴです。こうして、たくさんの方々の想いが数珠つなぎとなり、たまきちゃんが誕生しました。



初めての奨学生

たまきちゃんの奨学生(たまきちゃんクラブ会員)の募集を2024年2月29日に開始したところ、1週間足らずで定員の6名を超える申請がありました。全申請者との面談、フリースクール等からの情報収集を経て、厳正な審査を行なった結果、8名の子ども達が奨学生に採択されました。申請多数であったこともあり、できる限り努力し、採択人数を増やすことになりました。一人あたり月2万円、合計192万円程度を2024年度中に給付予定です。

| | | | |
|------|---|------|--|
| 対象 | 様々な理由により学校に行けない・行かない子ども(不登校の子ども) ※不登校傾向も含む 初年度は5名程度を予定 | 給付額 | 入学(会)金の半額: 上限25,000円 ※1 1箇所につき1回のみ 通所(通信)経費の半額: 月額上限20,000円 ※2 対象経費: 学費(月謝)、交通費(実費) |
| 年齢 | 6~18歳 ※理由次第では19歳以上を対象とする場合あり | 対象期間 | 給付は1年間を基本としますが更新可能です。更新の可否については奨学生の状況を把握し審査委員会にて判断します |
| 地域 | 筑後川関係地域(福岡県全域、佐賀県東部、大分県日田市、熊本県荒尾市・小国町・南小国町)に在住の方 | 返済義務 | 本奨学金は給付型とし、返済義務はありません |
| 所得制限 | 家庭の所得制限はありません | | |

子どもの多様な学びの場を保障する基金 応援お願いします

寄付募集で年間200万円程度を調達、毎年5名程度に奨学金を給付することを目指します。寄付者様、地域の皆様、このプロジェクトに応援いただくすべての方々と一緒に基金を育て、継続させたいと考えています。

奨学金給付: 265,000円 ※3(一人当たり年額) × 5名 = 1,325,000円 / 年 - (a)

基金運営費 ※4: 3,000,000円 × 20% = 600,000円 / 年 - (b)

(a) + (b) = 1,925,000円 / 年

残額は次年度以降の奨学金事業で活用していきます。

※3 初年度入学金上限額 25,000円、月謝上限額 20,000円の12ヶ月分 240,000円を合算

※4 基金の管理運営・奨学金事業の運営(奨学生の募集、選定、給付等)に関わる人件費、寄付募集や奨学生募集に関わる広告宣伝費など基金の運営を持続可能にするために必要な経費

ご寄付は下記QRコードまたはリンクからお申し込みいただけます

<https://congrant.com/project/chikugogawa/10592>





ちくご川コミュニティ財団を利用したい方へ

CSO(市民社会組織)の方へ

NPOやボランティア団体など、市民活動に取り組む皆様を資金的、非資金的にサポートします。寄付によるファンドレイジング(資金調達)、団体の認知度アップのための広報活動、人材育成や環境整備など、幅広い内容を専門家がサポートします。対面やオンラインでの面談など、まずはお気軽にご相談ください。



《ご活用の一例》

- 助成事業への公募申請(公募情報は随時発信中)
- クラウドファンディングの伴走支援
- 弊財団主催オンラインセミナーへのご参加
- メルマガやウェブサイト、SNSなどの広報計画
- 寄付募集チラシやアニュアルレポートの編集と発行



企業の方へ

ちくご川コミュニティ財団は、企業の皆さまとともに筑後川関係地域に寄り添い、地域にとってなくてはならない存在を目指しています。地域貢献活動をはじめSDGsやサステナビリティの実現にお役立ていただけます。私たちは、企業の強みや理念を活かした協働をご提案いたします。



《企業協働プロジェクトの一例》

- プロボノ、ボランティアのコーディネート
- 社会課題解決のための基金設立
- 寄付つき商品の開発
- 社内向け研修(SDGs、寄付啓発、社会貢献など)
- 消費者、顧客向けイベントの企画運営

子どもの多様な学びの場を保障するための基金を立ち上げたい

— フリースクール等利用者への給付型奨学金事業 —

目標金額 **300万円**

募集期間 2023 12/1 ~ 2024 1/31

西日本新聞社

yojibo



行政の方へ

私たちは市民主体の持続可能な地域の実現に向けて、行政の皆さまと協力し、筑後川関係地域の社会課題の解決に取り組んでいます。ちくご川コミュニティ財団には、社会課題特定のための調査研究や事業立案をするプログラムオフィサー、非営利組織における資金調達を担うファンドレイザーなど、多彩な専門家が在籍しています。

《行政連携の一例》

- 市民団体向けセミナー
(資金調達、広報、人材育成など)の企画運営
- 市民団体への個別相談、クラウドファンディングの伴走支援
- 補助金や施策等の制度設計と見直し
- 地域円卓会議の企画運営



まずは、お気軽にお問い合わせください

▶ 財団ウェブサイトのお問い合わせフォーム <https://c-comfund.com/contact.html>

▶ 電話 0942-34-5600 (平日 9:30~17:00)



遺贈寄付 - ご遺産を地域の未来に遺す -

「財産を生まれ育った故郷のため、地域の子どもの未来のために役立てたい」「故人の想いを寄付という形で地域に遺したい」など、ご自身の遺産を社会のために役立てたいとお考えの方は、ぜひご相談ください。少額からのご寄付や冠基金の設立も承っております。ちくご川コミュニティ財団は全国レガシーギフト協会の加盟団体です。福岡県で唯一の「いぞう寄付の窓口」として遺贈寄付を希望するご意思に寄り添い、安心してご相談いただける取り組みを行なっています。



ご相談の流れ

1. 弊財団遺贈寄付窓口担当者によるヒアリング

まずは下記「お問合せフォーム」またはお電話にてご相談ください。遺贈寄付を検討されている方、相続財産やお香典・お花料からの寄付を検討されている方に丁寧にヒアリングさせていただきます。お名前や金額の公表の可否も細かくお伺いいたします。

2. 計画書を作成します

【遺言による財産の寄付／相続財産からのご寄付】

ご本人様、故人様、ご遺族様の「寄付をこういうふうに残したい」という想いに沿って準備を進め、計画書を作成します。遺言書の書き方などを含めてご相談されたい場合、全国レガシーギフト協会のネットワークを活かして遺贈寄付に精通する専門家におつなぎいたします。

【お香典やお花料からのご寄付】

専用のお申し込みシートをメールまたは郵送にてご送付いただきます。お香典、お花料をお寄せいただいた方々への「お礼状データ」も用意してございます。データを無料でご提供いたしますのでお申し付け下さい。

3. 感謝と報告をさせていただきます

ご寄付が完了されましたら、作成した計画書に基づいて活用させていただきます。弊財団よりご寄付の活用状況をご報告させていただきます。

当財団ではさまざまな形で遺贈寄付を受け付けています



ご本人の遺言によるご寄付

遺言によって、遺産の一部またはすべてを当財団にたくしていただく方法です。



相続財産からのご寄付

ご両親など故人から相続された財産をご寄付いただけます。



お香典・お花料からのご寄付

故人の温かいお気持ちを会葬者の皆さまにお伝えできます。

遺贈寄付ストーリー

これまでに遺贈寄付やお香典による寄付などで、私たちに想いを託して下さった方々をご紹介します。

<遺言によるご寄付>

「社会の子育てをしたい」という想いを「子ども若者基金」に

「私の遺したものが現場で活動する人たちの助けになり、その先にいる子どもたちや若者たちの役に立つと思ふとしみじみと幸せだなあ」

ちくご川コミュニティ財団への遺贈寄付を決めたF・S様は、病気の過酷な痛みにも耐えながらこうつぶやきました。幼くして過酷な日常に身を置く子どもたちが、肅々とその人生を生きていることへの敬意と、その子どもたちを支える「現場」を何より尊重する遺贈者の思いが、この基金に込められています。



<お香典によるご寄付>

「被災された方々へ 寄り添って」

94歳で逝去された、三好美智子様。献身的で穏やかな方で、御息が経営する会社に毎日来て仕事を手伝い、社員の皆様をあたたかくやさしい微笑で見守ってくださいました。

2023年7月、九州北部で記録的大雨災害が発生。社員の方が学生ボランティアとともに、福岡県久留米市で災害支援活動をしていることを話すと、被災された方々に心を痛め「その方々へ寄り添って、頑張ってください」と声をかけられていました。

ご遺族様はお母様のご意思を受けて、通夜葬儀で寄せられたお香典から、ちくご川コミュニティ財団の災害支援基金へ浄財をお寄せくださいました。





ご支援、連携をいただいたみなさま

人が重なり力となる

RITAWORKS

 西日本新聞社

 congrant

 JANPIA
一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

yogibo

amazon

S O C I A L G O O D

 のびこ

久留米市
久留米市市民活動サポートセンターみんくる
公益社団法人 Civic Force
公益財団法人 日本非営利組織評価センター
一般社団法人 全国コミュニティ財団協会
一般社団法人 全国レガシーギフト協会
寄付月間共同事務局

個人寄付 340名様 (2022年8月～2024年3月)
法人寄付 31法人様 (同上)

発起人 220名様

あたたかいご支援、心強い連携をいただきありがとうございます



財務報告

第4期(2022年8月~2023年3月)、第5期(2023年4月~2024年3月)の財務報告を掲載いたします。報告の詳細は弊財団ウェブサイトの情報公開ページをご覧ください。

第4期正味財産増減表

自2022年8月1日 至2023年3月31日

| 科目 | 第3期実績 | 第4期実績 |
|----------------------|------------------------|------------|
| 1. 一般正味財産の部 | | |
| (1) 経常収益 | | |
| 基本財産運用益 | 28 | 28 |
| 基本財産受取利息 | 28 | 28 |
| 特定資産運用益 | 89 | 78 |
| 特定資産受取利息 | 89 | 78 |
| 事業収益 | 0 | 0 |
| 受託事業 | 0 | 0 |
| その他の事業収入 | 0 | 0 |
| 受取補助金等 | (a) 26,339,292 | 27,666,305 |
| 国庫補助金振替額 | 0 | 0 |
| 民間助成金振替額 | 26,339,292 | 27,666,305 |
| 寄付金 | 2,950,688 | 2,796,888 |
| 分野指定寄付額 | 0 | 0 |
| プロジェクト寄付額 | 0 | 0 |
| 支援事業寄付額 | 0 | 0 |
| 財団応援寄付額 | 0 | 0 |
| 設立発起人寄付 | 0 | 0 |
| 一回寄付 2021/7~ | 1,751,188 | 281,888 |
| 継続寄付 2021/7~ | 363,000 | 177,000 |
| 企業寄付 | 836,400 | 160,000 |
| クラウドファンディング(子ども若者基金) | 0 | 2,178,000 |
| 雑収入 | 100,023 | 40,010 |
| 受取利息 | 23 | 10 |
| 雑収入 | 100,000 | 40,000 |
| 雑損失 | 0 | 627 |
| 支払利息 | 0 | 627 |
| 営業外損益 | 100,023 | 39,383 |
| 経常収益 計 | (b) 29,390,020 | 30,502,682 |
| (2) 経常費用 | | |
| 事業費 | 26,339,292 | 29,466,000 |
| 役員報酬 | 1,048,811 | 1,362,880 |
| 給料手当 | 3,488,307 | 6,395,871 |
| 福利厚生費 | | 0 |
| 法定福利費 | | 0 |
| 外注費 | | 0 |
| 旅費交通費 | 22,140 | 206,186 |
| 通信費 | 177,287 | 37,716 |
| 寄付金 | 0 | 0 |
| 助成金 | 14,927,225 | 18,628,790 |
| 会議費 | 66,808 | 101,120 |
| 地代家賃 | 350,000 | 320,000 |
| 水道光熱費 | 27,600 | 88,160 |
| 消耗品費 | 10,763 | 29,916 |
| 租税公課 | 1,200 | 0 |
| 研修費 | 0 | 257,930 |
| 事務用品費 | 557,505 | 94,551 |
| 事務用備品費 | 0 | 0 |
| 広告宣伝費 | 649,852 | 331,421 |
| 支払手数料 | 4,531,794 | 990,770 |
| 振込手数料 | 0 | 12,669 |
| 諸会費 | 0 | 52,000 |
| 新聞図書費 | 0 | 5,060 |
| 支払助成金 | | 0 |
| 修繕費 | 480,000 | 550,960 |
| 雑費 | | 0 |
| 管理費 | 3,005,839 | 2,355,661 |
| 役員報酬 | 244,203 | 97,119 |
| 給料手当 | 655,226 | 367,714 |
| 福利厚生費 | 19,287 | 7,560 |
| 法定福利費 | 254,458 | 731,821 |
| 外注費 | 0 | 0 |
| 旅費交通費 | 162,324 | 251,444 |
| 通信費 | 123,496 | 160,694 |
| 寄付金 | 120,000 | 0 |
| 助成金 | 0 | 0 |
| 会議費 | 2,336 | 156 |
| 地代家賃 | 132,000 | 90,000 |
| 水道光熱費 | 64,080 | 24,840 |
| 消耗品費 | 43,281 | 19,447 |
| 租税公課 | 78,149 | 12,665 |
| 事務用品費 | 85,307 | 2,098 |
| 事務用備品費 | | 0 |
| 広告宣伝費 | 117,033 | 153,247 |
| 支払手数料 | 739,659 | 286,971 |
| 諸会費 | 45,000 | 24,166 |
| 新聞図書費 | 0 | 0 |
| 研修費 | 0 | 0 |
| 振込手数料 | 0 | 56,250 |
| 修繕費 | 120,000 | 54,940 |
| 雑費 | 14,529 | |
| 経常費用計 | (c) 29,345,131 | 31,821,661 |
| 当期一般正味財産増減額 | (d)=(b)-(c) 44,889 | -1,318,979 |
| 一般正味財産期首残高 | (e) 15,533,743 | 15,578,632 |
| 一般正味財産期末残高 | (f)=(e)+(d) 15,578,632 | 14,259,653 |

| 科目 | 第3期実績 | 第4期実績 |
|-------------------|------------------------|-------------|
| 2. 指定正味財産の部(休眠預金) | | |
| 受取補助金等 | 47,922,410 | 0 |
| 国庫補助金 | | 0 |
| 民間助成金 | (g) 47,922,410 | 0 |
| 受取寄付金 | 0 | 0 |
| 事業指定寄付額 | 0 | 0 |
| プロジェクト寄付額 | 0 | 0 |
| 支援事業寄付額 | 0 | 0 |
| 財団応援寄付額 | 0 | 0 |
| 設立発起人寄付 | 0 | 0 |
| 一般正味財産への振替額 | 26,339,292 | 27,666,305 |
| 受取補助金一般正味財産への振替額 | (a) 26,339,292 | 27,666,305 |
| 受取寄付金一般正味財産への振替額 | | |
| 当期指定正味財産増減額 | (h)=(g)-(a) 21,583,118 | -27,666,305 |
| 指定正味財産期首残高 | (i) 15,377,302 | 36,960,420 |
| 指定正味財産期末残高 | (k)=(i)+(h) 36,960,420 | 9,294,115 |
| 3. 正味財産期末残高 | (f)+(k) 52,539,052 | 23,553,768 |

第4期 貸借対照表

令和5年3月31日現在

| 科目 | 当年度期首 | 当年度期末 |
|--------------------|----------------------------|-------------|
| I 資産の部 | | |
| 1. 流動資産 | | |
| 現金 | 0 | 0 |
| 小口現金 | | 0 |
| 当座預金 | 2,818,319 | 619,682 |
| 普通預金 | 1,920,788 | 1,874,592 |
| 前渡金 | (g) 0 | 660,000 |
| 前払費用 | (g) 66,814 | 74,054 |
| 流動資産合計 | 4,805,921 | 3,228,328 |
| 2. 固定資産 | | |
| (1) 基本財産 | | |
| 普通預金 | 3,001,064 | 3,001,088 |
| 基本財産合計 | (a) 3,001,064 | 3,001,088 |
| (2) 特定資産 | | |
| 寄付受入預金(子ども若者基金) | (b) 9,100,600 | 9,475,917 |
| 休眠預金等活用事業助成金 | (c) 36,960,420 | 9,294,115 |
| 特定資産合計 | 46,061,020 | 18,770,032 |
| (3) その他固定資産 | | |
| 敷金 | 0 | 0 |
| その他固定資産合計 | 0 | 0 |
| 固定資産合計 | 49,062,084 | 21,771,120 |
| 資産合計 | (d) 53,868,005 | 24,999,448 |
| II 負債の部 | | |
| 1. 流動負債 | | |
| 未払費用 | 1,171,636 | 1,292,627 |
| 未払金 | | |
| 短期借入金 | 0 | 0 |
| 預り金 | 157,317 | 148,053 |
| 前受金 | 0 | 5,000 |
| 流動負債合計 | (e) 1,328,953 | 1,445,680 |
| 2. 固定負債 | | |
| 固定負債合計 | 0 | 0 |
| 負債合計 | 1,328,953 | 1,445,680 |
| III 正味財産の部 | | |
| 1. 指定正味財産(休眠預金事業) | 36,960,420 | 9,294,115 |
| 基本財産運用益 | 0 | 0 |
| 受取助成金 | (c) 36,960,420 | 9,294,115 |
| (内、基本財産への充当額) | (0) | (0) |
| (内、特定財産への充当額) | (36,960,420) | (9,294,115) |
| 2. 一般正味財産 | | |
| 一般正味財産合計 | (f)=d-c-e 15,578,632 | 14,259,653 |
| (内、基本財産への充当額) | (3,001,064) | (3,001,088) |
| (内、特定財産への充当額) | (9,100,600) | (9,475,917) |
| 正味財産合計 | (c)+(f) 52,539,052 | 23,553,768 |
| 負債及び正味財産合計 (CFベース) | (c)+(f)-(g)+(e) 53,801,191 | 24,265,394 |

第5期 正味財産増減表
自2023年4月1日 至2024年3月31日

| | | 単位：円 | |
|--------------------|----------------------------|-------------|--|
| 科 目 | 4年度実績 | 5年度実績 | |
| 1. 一般正味財産の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 基本財産運用益 | 28 | 28 | |
| 基本財産受取利息 | 28 | 28 | |
| 特定資産運用益 | 78 | 76 | |
| 特定資産受取利息 | 78 | 76 | |
| 事業収益 | 0 | 0 | |
| 受託事業 | 0 | 0 | |
| その他の事業収入 | 0 | 0 | |
| 受取補助金等振替額 | (a) 27,666,305 | 44,915,451 | |
| 国庫補助金 | 0 | 0 | |
| 民間助成金 | 27,666,305 | 44,915,451 | |
| 寄付金振替額 | (b) 2,796,888 | 8,225,094 | |
| 財団応援寄付 | 994,209 | 1,021,572 | |
| 子ども若者応援助成 | 1,802,683 | 5,506,679 | |
| 災害支援 | | 1,186,843 | |
| たまきちゃん | | 510,000 | |
| 雑収入 | 40,010 | 318,809 | |
| 受取利息 | 10 | 9 | |
| 雑収入 | 40,000 | 318,800 | |
| 雑損失 | 627 | 0 | |
| 支払利息 | 627 | 0 | |
| 営業外損益 | 39,383 | 318,809 | |
| 経常収益 計 | (c) 30,502,682 | 53,459,458 | |
| (2) 経常費用 | | | |
| 事業費 | 29,466,000 | 51,377,670 | |
| 役員報酬 | 1,362,880 | 1,944,000 | |
| 給料手当 | 6,395,871 | 14,418,481 | |
| 法定福利費 | 0 | 767,491 | |
| 委託費 | 0 | 494,500 | |
| 旅費交通費 | 206,186 | 611,732 | |
| 通信費 | 37,716 | 193,360 | |
| 助成金 | 18,628,790 | 30,081,458 | |
| 会議費 | 101,120 | 77,410 | |
| 地代家賃 | 320,000 | 505,000 | |
| 水道光熱費 | 88,160 | 126,498 | |
| 消耗品費 | 29,916 | 1,754 | |
| 租税公課 | 0 | 11 | |
| 研修費 | 257,930 | 125,240 | |
| 事務用品費 | 94,551 | 106,977 | |
| 事務用備品費 | 0 | 133,531 | |
| 広告宣伝費 | 331,421 | 1,120,222 | |
| 支払手数料 | 990,770 | 498,499 | |
| 振込手数料 | 12,669 | 32,286 | |
| 諸会費 | 52,000 | 108,000 | |
| 新聞図書費 | 5,060 | 31,240 | |
| 修繕費 | 550,960 | 0 | |
| 雑費 | 0 | 0 | |
| 管理費 | 2,355,661 | 4,157,774 | |
| 役員報酬 | 97,119 | 336,000 | |
| 給料手当 | 367,714 | 1,122,967 | |
| 福利厚生費 | 7,560 | 6,720 | |
| 法定福利費 | 731,821 | 1,029,329 | |
| 委託費 | 0 | 19,126 | |
| 旅費交通費 | 251,444 | 645,334 | |
| 通信費 | 160,694 | 211,469 | |
| 交際費 | 0 | 6,667 | |
| 会議費 | 156 | 41,126 | |
| 地代家賃 | 90,000 | 95,000 | |
| 水道光熱費 | 24,840 | 25,797 | |
| 消耗品費 | 19,447 | 7,918 | |
| 租税公課 | 12,665 | 58,874 | |
| 事務用品費 | 2,098 | 28,165 | |
| 事務用備品費 | 0 | 3,008 | |
| 広告宣伝費 | 153,247 | 81,584 | |
| 支払手数料 | 223,611 | 205,152 | |
| 振込手数料 | 56,250 | 57,786 | |
| 諸会費 | 24,166 | 41,000 | |
| 賃借料 | 63,360 | 126,720 | |
| 修繕費 | 54,940 | 0 | |
| 雑費 | 14,529 | 8,032 | |
| 経常費用計 | (d) 31,821,661 | 55,535,444 | |
| 当期一般正味財産増減額 | (e)=(c)-(d) -1,318,979 | -2,075,986 | |
| 一般正味財産期首残高 | (e) 15,578,632 | 4,783,736 | |
| 一般正味財産期末残高 | (f)=(e)+(d) 4,783,736 | 2,707,750 | |
| 2. 指定正味財産の部 | | | |
| 受取補助金等 | 0 | 177,147,990 | |
| 国庫補助金 | 0 | 0 | |
| 民間助成金 | 0 | 177,147,990 | |
| 受取寄付金 | 2,796,888 | 6,392,335 | |
| 一回寄付 | 441,888 | 1,794,572 | |
| 継続寄付 | 177,000 | 225,000 | |
| クラウドファンディング | 2,178,000 | 3,330,000 | |
| 遺贈寄付 | 0 | 1,000,000 | |
| 街頭募金 | 0 | 47,763 | |
| 指定正味財産期首残高(休眠預金) | 36,960,420 | 9,294,115 | |
| 受取補助金等 | 0 | 177,147,990 | |
| 指定正味財産期末残高 | (g) 9,294,115 | 141,526,654 | |
| 当期指定正味財産増減額 | (h) 27,666,305 | 44,915,451 | |
| 指定正味財産期首残高(子ども若者) | 9,100,600 | 9,475,917 | |
| 受取寄付金等 | 2,178,000 | 70,000 | |
| 指定正味財産期末残高 | (i) 9,475,917 | 4,039,238 | |
| 当期指定正味財産増減額 | (j) 1,802,683 | 5,506,679 | |
| 指定正味財産期首残高(災害支援) | 0 | 0 | |
| 受取寄付金等 | 0 | 1,459,763 | |
| 指定正味財産期末残高 | (k) 0 | 272,920 | |
| 当期指定正味財産増減額 | (l) 0 | 1,186,843 | |
| 指定正味財産期首残高(たまきちゃん) | 0 | 0 | |
| 受取寄付金等 | 0 | 3,841,000 | |
| 指定正味財産期末残高 | (m) 0 | 3,331,000 | |
| 当期指定正味財産増減額 | (n) 0 | 510,000 | |
| 3 正味財産期末残高 | (f)+(g)+(k)+(m) 23,553,768 | 151,877,562 | |

第5期 貸借対照表
令和6年3月31日現在

| | | 単位：円 | |
|----------------------------|-----------------|-------------|---------------|
| 科 目 | | 当年度期首 | 当年度期末 |
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金 | | 0 | 0 |
| 小口現金 | | 0 | 0 |
| 当座預金 | | 619,682 | 167,777 |
| 普通預金 | | 1,874,592 | 2,099,615 |
| 前渡金 | (g) | 660,000 | 0 |
| 前払費用 | (g) | 74,054 | 103,711 |
| 貯蔵品 | (g) | 0 | 5,166 |
| 流動資産合計 | | 3,228,328 | 2,376,269 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 普通預金 | | 3,001,088 | 3,001,112 |
| 基本財産合計 | (a) | 3,001,088 | 3,001,112 |
| (2) 特定資産 | | | |
| 寄付金預入預金(子ども若者・災害支援・たまきちゃん) | (b) | 9,475,917 | 7,643,158 |
| 休眠預金等活用事業助成金 | (c) | 9,294,115 | 141,526,654 |
| 特定資産合計 | | 18,770,032 | 149,169,812 |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 敷金 | | 0 | 0 |
| その他固定資産合計 | | 0 | 0 |
| 固定資産合計 | | 21,771,120 | 152,170,924 |
| 資産合計 | (d) | 24,999,448 | 154,547,193 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未払費用 | | 1,292,627 | 2,081,151 |
| 未払金 | | 0 | 100 |
| 短期借入金 | | 0 | 0 |
| 預り金 | | 148,053 | 583,380 |
| 前受金 | | 5,000 | 5,000 |
| 流動負債合計 | | 1,445,680 | 2,669,631 |
| 2. 固定負債 | | | |
| | | 0 | 0 |
| 固定負債合計 | | 0 | 0 |
| 負債合計 | (e) | 1,445,680 | 2,669,631 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 指定正味財産 | | | |
| 基本財産運用益 | | 0 | 24 |
| 受取助成金 | | 9,294,115 | 177,147,990 |
| 受取寄付金 | | 0 | 6,392,335 |
| (内、基本財産への充当額) | | (0) | (24) |
| (内、特定財産への充当額) | | (9,294,115) | (149,169,812) |
| 2. 一般正味財産 | | | |
| 一般正味財産合計 | (f)=d-b-c-e | 4,783,736 | 2,707,750 |
| (内、基本財産への充当額) | | (0) | (0) |
| (内、特定財産への充当額) | | (0) | (0) |
| 正味財産合計 | (b)+(c)+(f) | 23,553,768 | 151,877,562 |
| 負債及び正味財産合計 (CFベース) | (c)+(f)-(g)+(e) | 24,265,394 | 154,438,316 |

▼ 情報公開ページ

<https://c-comfund.com/about/public.html>



これからの5年に向けてー第3次中期事業計画(2024~2026年度)ー

第1次中期事業計画は、創業者の思いが詰まったものでした。『市民が主体的に公益を担う社会を実現するために「人の役に立ちたい」と活動している方々へ「活動の力になりたい」を届けます。』をどう実現するかを模索し、つくり上げ、実施しました。第2次中期事業計画では、子ども若者支援と自然災害支援に重点を置き、当財団の組織基盤強化も図りました。結果として、休眠預金活用事業や子ども若者応援助成の実施、災害支援基金の設立、クラウドファンディングの活用などで多くの成果を上げました。2022年には日本非営利組織評価センターのグッドガバナンス認証を取得し、組織力が向上しました。

第1次、第2次の計画を受け、当財団の事業を助成(資金支援)、組織基盤強化、環境整備の3つに整理し、展開します。新しく中期事業計画を策定するにあたり、向かうべき方向性を示すため5~10年後に達成を目指す長期アウトカム(目標)を定めました。また、本中期事業計画中の目標として中期アウトカム、事業、組織、財源の3本の柱で短期アウトカムを以下の通り設定しました。

長期アウトカム(5~10年後)

筑後川関係地域において、民間公益活動を支えるプラットフォームとして地域の持続可能性の向上に貢献する。

中期アウトカム(3年後)

持続可能な事業運営、組織体制の整備、財源の確保により、地域の民間公益活動を支えるプラットフォームとしての役割を果たす。

「事業の柱」

短期アウトカム1: 子ども若者支援、家庭支援、災害支援に特化した助成、組織基盤強化、環境整備を実施することにより、民間公益活動における地域の基盤を強化する。

「組織の柱」

短期アウトカム2: 公益財団法人・グッドガバナンス認証団体として更なるガバナンス・コンプライアンス体制の強化ができ、地域社会から信頼されている。

短期アウトカム3: プログラムオフィサーやバックオフィスに適材適所の人材確保がなされ、かつ業務効率が改善されることにより、グループ・ダイナミクスが起きている。

「財源の柱」

短期アウトカム4: 休眠預金活用事業による財源確保とそれ以外の財源として、寄付収入の増加、遺贈寄付の推進、自主事業による収入、自治体からの委託事業等の獲得により、財源の多様化と安定化を果たす。



地域の5年先を 市民主体で守るために 想いと活動をつなぐプラットフォーム ちくご川コミュニティ財団の仲間になろう

2024年8月1日で設立5周年を迎えるちくご川コミュニティ財団は、筑後川関係地域の社会課題解決を支える仲間「マンスリーサポーター」を募集しています。毎月定額のご寄付(1,000円〜)で当財団の運営を後押しできるほか、ご自身のスキルや時間を活用して私たちと一緒に活動できます。「誰かの役に立ちたい」「ボランティア活動してみたいけど1人で初めるのは不安」「地域やふるさとに貢献したい」というあなたの想いを叶えます。



▶ 決済方法

クレジットカード、Apple Pay/Google Pay、銀行振込、郵便振替（手数料負担なし）、現金で承ります。クレジットカードは以下の5大国際カードブランドに対応しています。

▶ 種別

法人寄付、個人寄付、匿名寄付



▶ 金額

(毎月) 1,000円、3,000円、5,000円、10,000円

※一括年払いをご希望の場合はお申し込み画面で「今回のみ」を選択してください

▶ お申し込み方法

右記QRコードから寄付・会費決済サービス「コングラント」よりお好きなタイミングでお申し込み下さい。オンラインでのお申し込みが難しい場合は弊財団にご連絡ください。



ちくご川コミュニティ財団は「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づいて設立された一般財団法人です。個人寄付の場合、寄附金は法に定める特定寄附金ではないため所得税の申告時の寄附金控除対象には該当いたしません。法人寄付の場合、資本金等の額と所得の額に応じて計算した損金算入限度額までは損金算入できます。詳しくは国税庁ウェブサイトをご覧ください。なお、弊財団は公益財団法人化を目指して手続きを進めております。

今すぐ、単発寄付で支援する

まずは1度から、お好きなタイミング、お好きな金額でちくご川コミュニティ財団を応援いただけます。

お申し込みは右記QRコードから、または弊財団までご連絡ください。



一般財団法人
ちくご川コミュニティ財団

〒830-0048 福岡県久留米市梅満町 563

☎ 0942-34-5600 🏠 0942-34-5777 ✉ info@c-comfund.com 🌐 https://c-comfund.com/